



世界唯一の防災発明！

瞬時に命を守る

災害時における飲料水備蓄と

消火水（スプレッシャー）を確保する

防災システムのご説明

株式会社フアロスパートナーズ

<石原都知事が検討されている、民間事業者への水の備蓄努力義務条例に関連した製品のご説明です。>

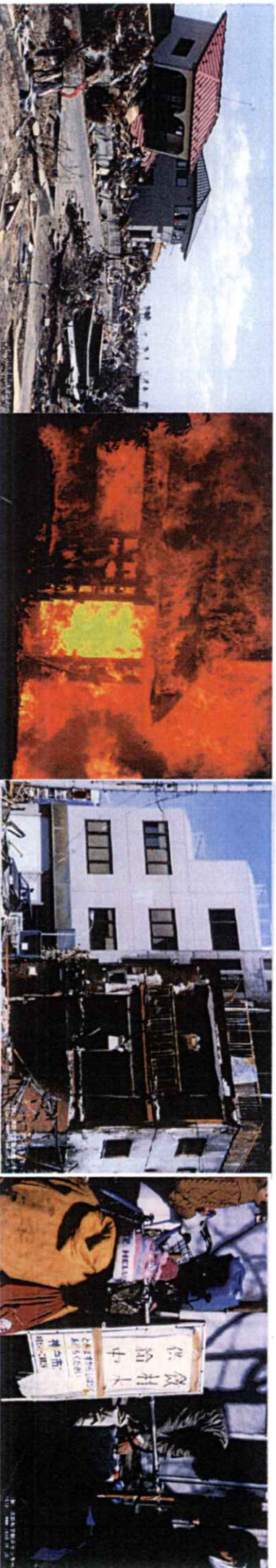
理念

震災国日本から人命・社会を守る

コンセプト

阪神淡路大震災の経験から地震国日本の人命・社会を守るため開発を行いました。

3 1 1 東日本大震災をうけ、いつ起きるかわからない震災に一刻も早くこの事業化を実現し社会に貢献します。



(出典：災害写真データベース http://www.saijichoua-db.isad.jp/drdb_photo/photoSearch.do)

火災は住宅・共同住宅に集中

- ・建物火災による死者の **90.3%** が住宅で発生
- ・死者は 65 歳以上が **56.9%**
- ・逃げ遅れによる死者数は **56.6%**

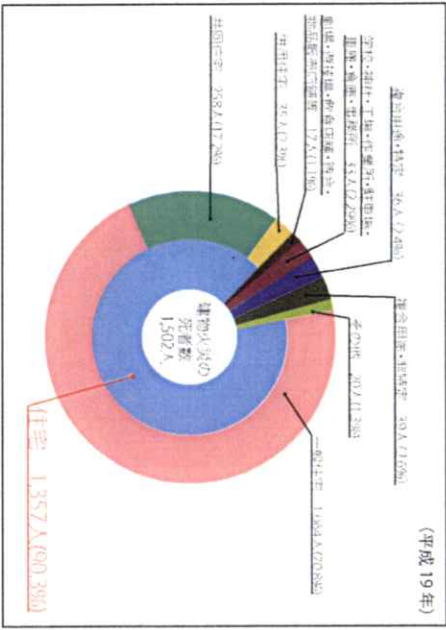


図1.建物区分別の死者発生状況

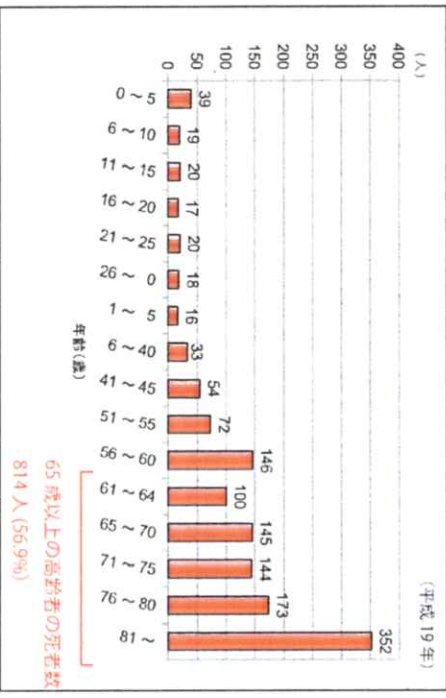


図2.火災による年齢階層別死者発生状況 (放火自殺者を除く)

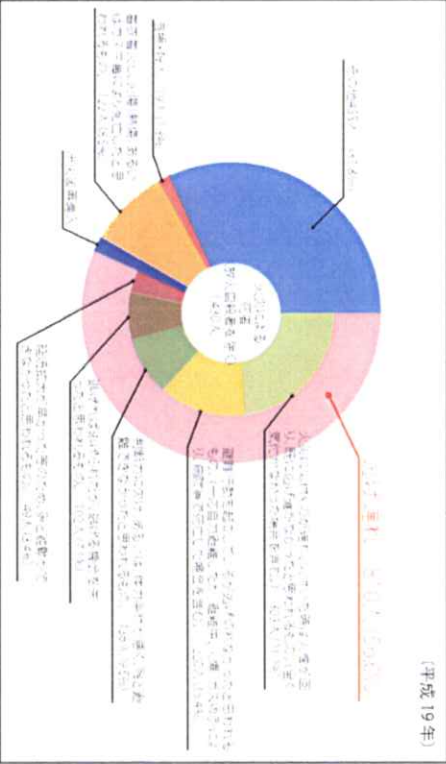


図3.火災による経過別死者発生状況 (放火自殺者を除く)

地震による火災と断水率

- ・地震による死者の **約 50%** が火災が原因
- ・都内の建物約 270 万棟のうち **約 31 万棟 (約 11%)** が消失
- ・上水道の断水率は **34.8%** 復旧日数は 30 日である。
- ・火災などの被害は **木造住宅密集地に集中する**

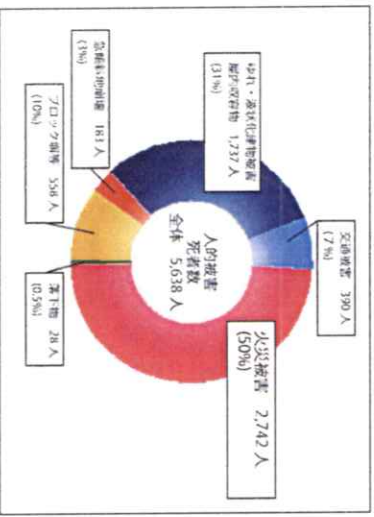


図4.東京湾北部を震源とする M7.3の地震が発生した場合の人的被害 (死者数)

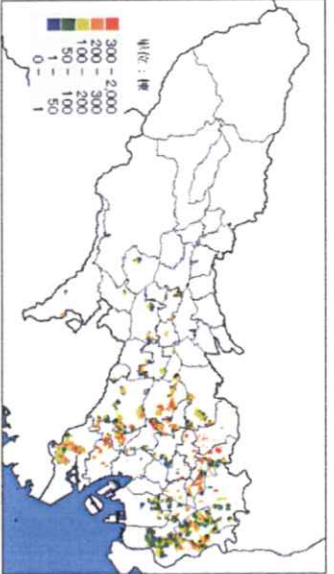


図2.東京湾北部を震源とする M7.3の地震が発生した場合の火災発生件数

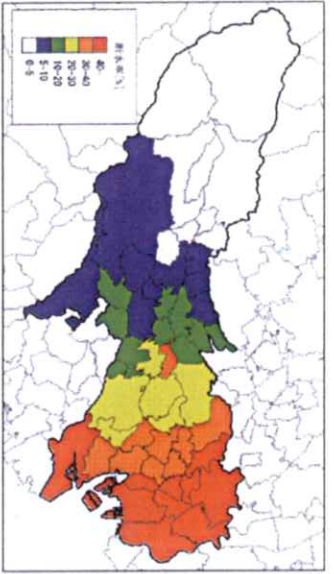


図5.東京湾北部を震源とする M7.3の地震が発生した場合の上水道断水率

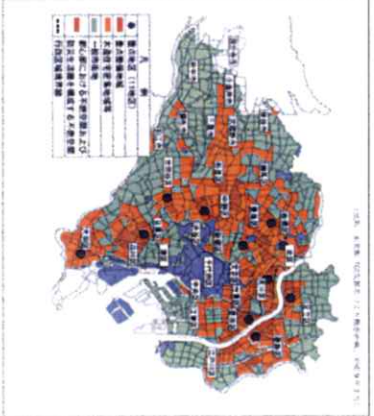


図3.木造住宅密集市街地の整備地域 (計画)

想定数は「首都直下地震による東京の被害想定」(平成 18 年 5 月) より

2. 地震災害・火災に関するデータ

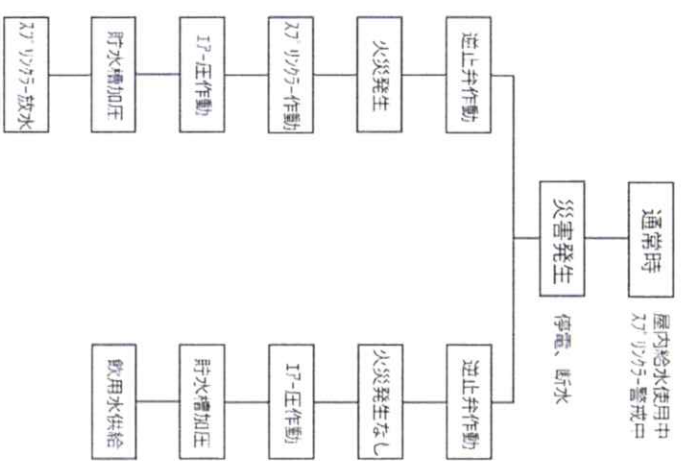
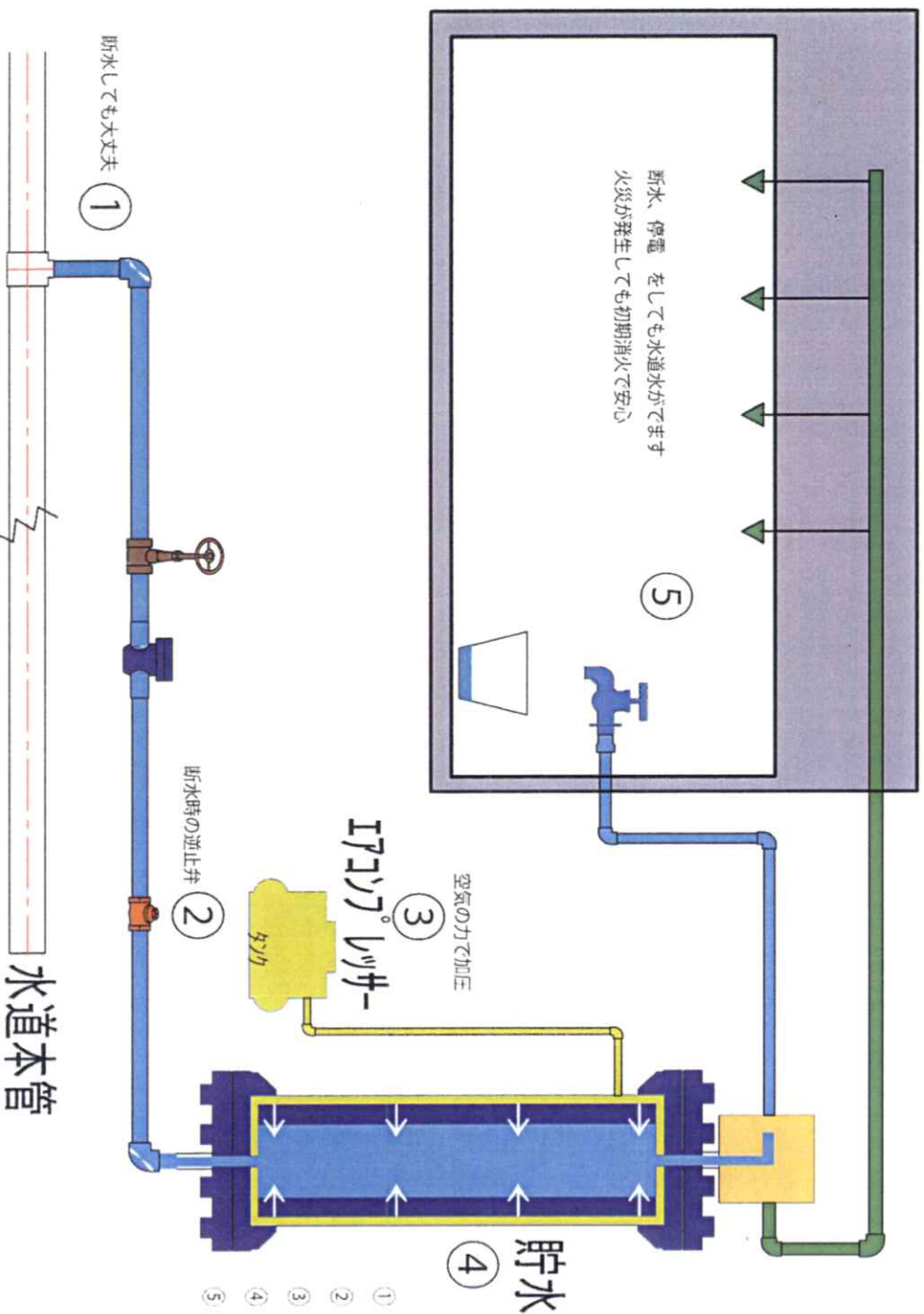
命の水プロジェクト

ｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰ消火水 + 飲料生活水

システム作動フロー

災害、緊急時に、停電しても、断水しても、常に新しい水を貯水しているので
新鮮な飲料水として使用できる給水加圧装置です。

防災システム全体



- ① は水道本管から分岐
- ② は逆流防止弁
- ③ は常に空気を蓄え、断水時に貯水チューブを加圧するコンプレッサー
- ④ は内部に貯水加圧チューブを備えた配管型貯水部
- ⑤ は蛇口やトイレの給水及びｽﾌﾟﾘﾝｸﾞｰ消火ヘッド

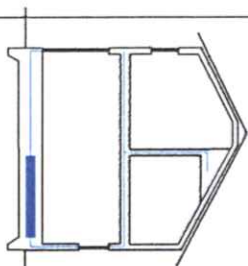
「貯水部のチューブ加圧構造」

現在国際特許出願中
2011年10月16日 WIPO公開
出願番号 PCT/JP2011/058954

取り付けは簡単

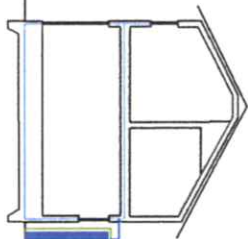
ビルト・イン

新築住宅の床又ラフ等に相
み込む。



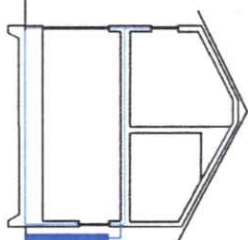
ユニットとして

4本のチヨークをセットに
ユニットとして設置。



狭い既存の家にも

洗濯機のホースや何かの水
源を繋げれば、既存の家は
も簡単につけられる！

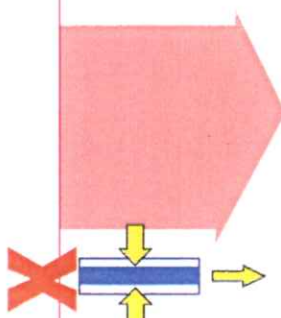


使い方も簡単

普通の生活を送るだけで自然とい
つても新鮮な水がたまっていく。



災害によりラインが遮断された断
水時にはエアニオンプレックスが内部の
チヨークを加圧し、断水時にも新鮮な水、
更にはエアリフレッシュも使える！

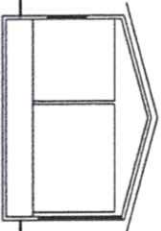


建物規模に合わせた設置

3日分の生活飲料水を備蓄可能！

1人～2人暮らし

70㎡ 2人

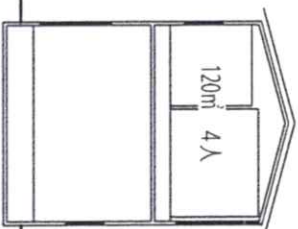


備蓄可能水量



4人家族

120㎡ 4人

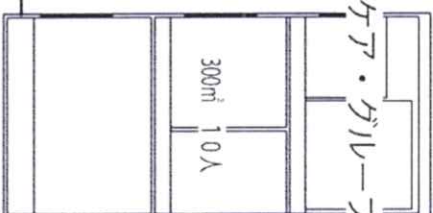


備蓄可能水量



デイクエア・グループホーム等

300㎡ 10人

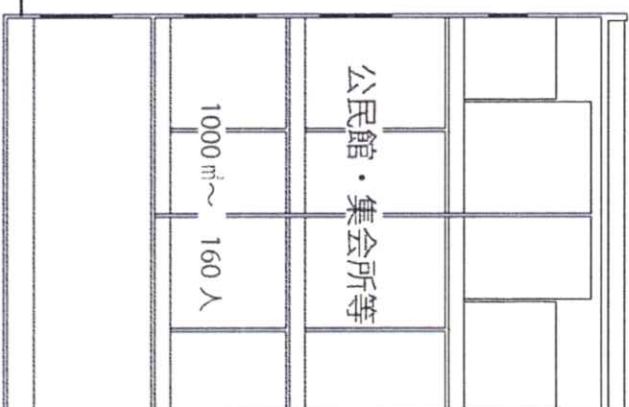


備蓄可能水量



公民館・集会所等

1000㎡～ 160人

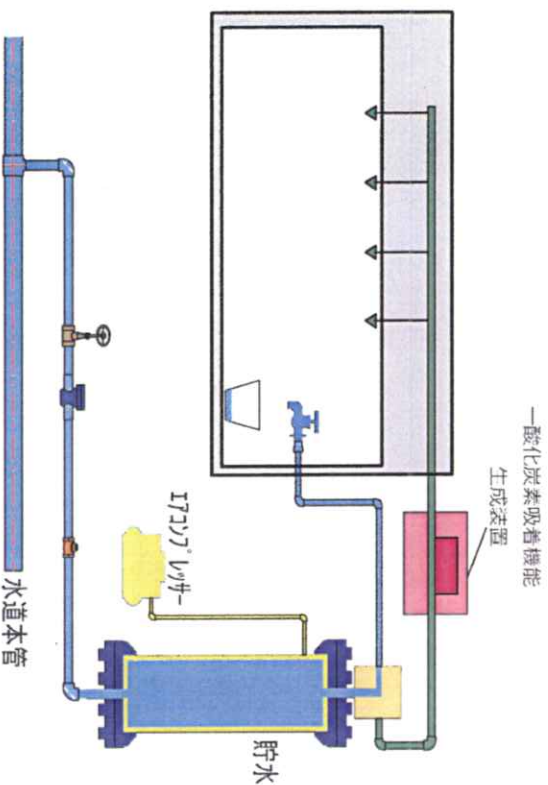
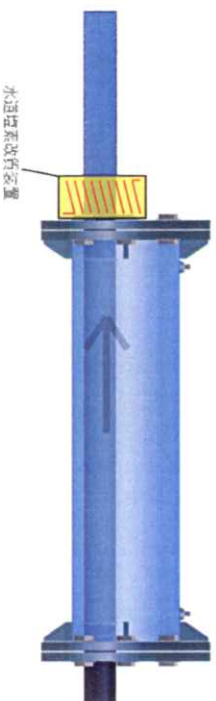


備蓄可能水量



付加機能・バリエーション

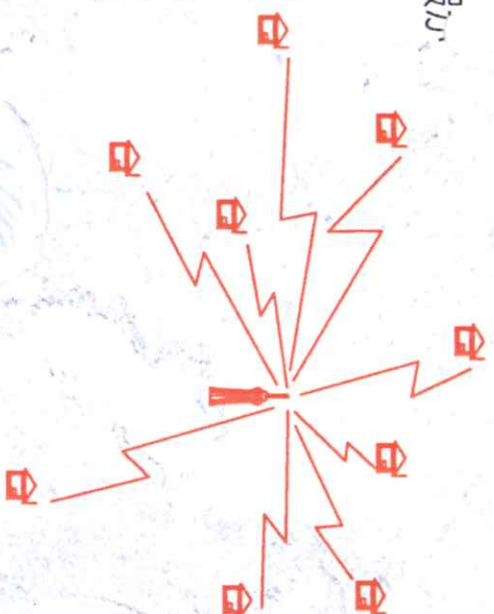
平常時においての飲用水を美味しくする機能を搭載し、付加価値向上を図る。その技術では次亜塩素の除去技術を使い使用時の流水検知により効率的に分解除去致します。



地震災害は瞬時の情報救命を救う

本装置には新水信号、停電信号、火災信号の出力機能があり通信ユニットの搭載又は通信接続により情報を収集できます。また、サイネージ技術により地域単位の緊急情報配信を無線通信で行うことで災害時に有効な地域ごとの避難誘導及び災害状況を把握するシステムの構築が可能です。

未来には飲む事のできない水道圏も浄水技術の向上と共に需要と見えます。



本体装置のセンサー機能を利用して火災、断水、停電、などの地域別防災情報収集システムの確立。未来に向けて、日本の水道浄水技術と共に海外へ。

カルキ臭の少ない美味しい水 (自社開発) 火災時の一酸化炭素を吸着できる消火水 (大学と共同開発)

火災時に発生する一酸化炭素を吸着させる技術を開発して、より広い用途への技術転用と製品搭載を確立して高い信頼性の商品を目指します。
また、既存消火設備への付加も可能です。